

# シンポ 「東アジアの安全保障と 沖縄」に寄せて

—— 李 鍾元

がある。2010年代に入り「中国の軍拡」が争点として浮上すると、「中国の脅威」への「抑止力」という議論が際立つようになる。さらに、朝鮮半島での全面戦争の再発より北朝鮮の核開発や体制の崩壊への対応がより現実的な課題になると、在沖の米海兵隊は、朝鮮半島有事の際の「北朝鮮の核兵器など大量破壊兵器の捜索・確保」が任務とされた。状況に応じて在沖米軍の役割が変わることほありうる。問うべきは、まず軍事的な観点からも、そのような任務のために沖縄の基地が不可欠なのかという点である。

現に、12年から毎年3月、米韓の海兵隊の合同演習が韓国で実施されている。その目的は、有事の際に「北朝鮮内陸に浸透し核ミサイル基地などを破壊することにある」とされる。米軍側の主力としては在沖の米海兵隊が参加している。しかし、今年の演習に初めて米本土に駐留する第13海兵遠征隊が加わった。おそらく太平洋の米海兵隊がグアムを拠点に再編される中、米本土からも迅速に展開できる能力を試すためである。さらに、中国や北朝鮮などの「脅威」、その観点からも現実的な問題提起が可能であろう。

沖縄の米軍基地問題は、基本的に構造的差別の問題であり、また民主主義の課題である。軍事的な必要があるとしても、その負担の配分を誰がどのように決めるかという問題である。しかし、基地負担の押し付け合いの次元にとどまってはいけない。さらに、中国や北朝鮮などの「脅威」、その観点からも現実的な問題提起が可能であろう。

## 現実的代案は存在

### 求められる「地域」の視点

迎えている。4回目の核実験とミサイル能力の向上で、国連制裁が拡大、強化され、中国も北朝鮮への圧力を強めている。しかし、国連制裁決議にも明記されているように、制裁はそれ自体が目的ではなく、北朝鮮を非核化の場に引き戻すためのものである。金正恩体制の北朝鮮はさらなる強硬姿勢をちらつかせているが、経済的な限界は否定できず、「交渉」にも言及しはじめた。米中など関係国の間でも六者協議の再開が模索されている。朝鮮半島の現状で、武力の行使が事実上不可能である以上、外交による解決しか道はない。05年9月の六者協議共同声明には、非核化とともに、北東アジアの地域安全保障と経済協力がパッケージとなつている。「北朝鮮問題」の解決には、北東アジアの包括的な安全保障体制が不可欠という発想が土台にある。共同声明に規定されたように、朝鮮半島が平和体制に向けて動きだせば、沖縄の基地問題をめぐる安全保障状況は大きく変わるだろう。「地域」の視点が求められる所以である。容易ではないが、現実的な代案は存在する。

(リー・ジョンウォン、早稲田大学教授)

◇ シンポジウム「東アジアの安全保障と沖縄—辺野古の新基地は必要か」(同実行委員会議主催)が16日午後2時5分、沖縄国際大学5号館106教室で開かれる。宮里政玄・沖縄対外問題研究会顧問が基調報告を行い、マーティン・ファクラ(前ニューヨークタイムズ東京支局長)、我部政明(琉球大学教授)、李鍾元の3氏が討論する。問い合わせは098(895)8215。

迎えている。4回目の核実験とミサイル能力の向上で、国連制裁が拡大、強化され、中国も北朝鮮への圧力を強めている。しかし、国連制裁決議にも明記されているように、制裁はそれ自体が目的ではなく、北朝鮮を非核化の場に引き戻すためのものである。金正恩体制の北朝鮮はさらなる強硬姿勢をちらつかせているが、経済的な限界は否定できず、「交渉」にも言及しはじめた。米中など関係国の間でも六者協議の再開が模索されている。朝鮮半島の現状で、武力の行使が事実上不可能である以上、外交による解決しか道はない。05年9月の六者協議共同声明には、非核化とともに、北東アジアの地域安全保障と経済協力がパッケージとなつている。「北朝鮮問題」の解決には、北東アジアの包括的な安全保障体制が不可欠という発想が土台にある。共同声明に規定されたように、朝鮮半島が平和体制に向けて動きだせば、沖縄の基地問題をめぐる安全保障状況は大きく変わるだろう。「地域」の視点が求められる所以である。容易ではないが、現実的な代案は存在する。

(リー・ジョンウォン、早稲田大学教授)

◇ シンポジウム「東アジアの安全保障と沖縄—辺野古の新基地は必要か」(同実行委員会議主催)が16日午後2時5分、沖縄国際大学5号館106教室で開かれる。宮里政玄・沖縄対外問題研究会顧問が基調報告を行い、マーティン・ファクラ(前ニューヨークタイムズ東京支局長)、我部政明(琉球大学教授)、李鍾元の3氏が討論する。問い合わせは098(895)8215。